

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年6月30日(土) 午後3時から4時30分まで 【2回目】平成30年8月22日(水) 午後6時から7時30分まで
場 所	河原子中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】32人 【2回目】9人 計41人 (2) 事務局 【1回目】教育長 【2回目】教育部長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 河原子小 138人(6) 大沼小 351人(12) 塙山小 224人(8) 河原子中 111人(3) (20年後) 河原子小 104人(6) 大沼小 265人(12) 塙山小 169人(6) 河原子中 84人(3) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問) 児童生徒数の推計で、宅地の開発など、人口増減の要素として加味しているものはないのか。地域によっても、増減があるのではないか。</p> <p>(事務局) 推計に加味している要素はない。全部の地域に同じ推計率を掛けている。</p> <p>(質問) 将来的に、河原子中は無くなるのか。何年頃に、何校減らす、ということが決まっているのか。</p> <p>(事務局) 河原子中が無くなるかどうかは白紙の状態である。 現在、具体的な再編計画を検討しているが、その中で具体的に決めていく考えである。市の全体像と今後10年間に取り組む内容を検討して計画に表していく。</p> <p>(教育長) 今の心配は、皆さんが思っていることだと思う。10年後、20年後の推計を口頭で申し上げたのは、あくまでも人口の推計であるから。しかし、少し心配なのは、実際の人口がこの推計と同じように推移しているということ。これからどのように開発され、変わって行くのか分からない部分もある。 数字だけからいえば、日立市は多くの学校が心配な状況。 庁内からの情報も集めて検討していく。数だけではなく、日立には日立の事情がある。</p>	

(意見)

まだ先のことだが、中学校に子どものやりたい部活があるのか心配になる。

(意見)

小学校が学年1学級しかない。(いじめなどの)問題があったら、6年間そのままやって行けるか心配になった。

(事務局)

単学級の課題の一つである。いじめのような問題が起きた場合、学校全体で、チームで取り組むようにしている。クラス替えができれば、環境を変えるなどの対応をすることもできる。

入学後に心配なことがあったら、学校に相談してほしい。

(事務局)

入学後にいじめなどがあったら心配という声があったが、参加されている方の中で学校の様子など話していただけないか。

(意見)

人数が少ないので、生徒も保護者同士も仲がよい。学級の人数は15人くらいがよいと思っている。河原子小の先生方は、子どものことも保護者のことも親身になって相談にのってくれる。30人前後に1人の先生では大変だと思う。制度とはいえ、免許の関係で、退職した先生方に協力していただくこともできない。シニアの方々に各学校に入っていて、若い先生方に指導していただきたいと思っている。先生方の負担を減らし、教育の質を上げてほしい。

人口が少なくなる中で、学校の再編ということも分かるが、地域が死んでしまうことも否定できない。

将来的には、小中一貫教育なども検討してはどうか。

(意見)

入学当初は2学級あった。3年生になるときに1学級(40人)になった。子どもに聞いてみると、先生と話す時間が少なくなった、友達とコミュニケーションをとるのが難しいというようなことを言っていた。小学校入学時や中学校進学時に編制が変わるのはいいが、途中から変わるの、子どもにとっては負担がかかることなのかなと思う。

将来的には統合はあるのかなとは思いますが、(統合の)ある程度のモデルがあるなら教えてほしい。

(意見)

3年生になるときに3学級から2学級になった。急に人数が増えて、授業参観の時など大変だった。転校などで、数人の違いで学級が減ると、1学級の人数が多くなって大変だ。入学時の人数で続けばいいと思う。

自分も塙山小から河原子中に進学したが、当時から数人しかいなかった。学区の振り分けが微妙だなと思う。

(事務局)

学級の人数についてのご意見が出ているようなので、学級編制の仕組みについて説明させていただきます。

学級の人数には基準がある。現行の茨城県の基準は、小学1、2年生が35人、小学3年生から中学3年生までが40人となっている。41人になれば2クラスに分かれるので、20人と21人のクラスになる。学級の人数には幅がある。茨城県では、できるだけ少人数で行おうという考えがあり、小学3年生から6年生までの35人を超える（36人以上）学級には講師が配置される。さらに、そのような学級が学年に3学級以上ある場合は、学級を増やして4学級にできるルール（茨城方式）がある。

学校の再編についてどのようなイメージを持っているか、仮に統合になったときには配慮してほしいことや期待することなどがあれば聞かせてほしい。

（意見）

パンフレットには、学級数だけで人数に触れていない。2学級、3学級には賛成だが、学校を合併する前に学級の人数について議論してほしい。

（事務局）

基本方針を作成する間、保護者の方や検討委員会の中でもクラスの人数について議論したいというご意見はあった。

国・県の基準があるが、市が独自に学級の人数を決めることもできる。基準を下げて学級を作ると、その分の教員は市が雇うことになり、財政面ばかりでなく、講師を確保することが難しく、現実的には厳しい。検討委員会では、学級の人数を少なくしたいと考えても、いろいろな制約があり安易に結論付けることはできないということで、基本方針に含めていない。

皆さんの関心も高いので、教育委員会として独自の制度が作れるかどうかは引き続き検討していきたい。

（教育長）

アンケートでも学級の人数は少ない方がよいというご意見を多くいただいている。再編に当たっては、リーフレットにあるようにいろいろな要件を勘案しながら進めていく中で、全てではないが学区の見極めをしていく必要もあるだろう。

学級の人数を少なくして教員を雇うのは、皆さんからお預かりしている税金で賄うことになる。子どもを大切にするという議論の中で考える必要もあるだろう。

（事務局）

一昨年の懇談会でも、小学校での仲良しの友達が中学校で別れてしまうのは寂しいという意見をいただいた。小中一貫教育をというご意見もいただいたが、小中一貫教育を考えるに当たっては、小学校と中学校の組み合わせは決まっていたほうが連携しやすい。日立市は学区が複雑で、小学校が分かれて中学校に行くところが多い。再編に当たっては、小中学校が連携しやすいように配慮していくことにしている。

学区についてご意見をいただきたい。

（質問）

河原子中学区だが、学区境に住んでいて大久保中を選ぶこともできると聞いたことがあるが、中学校を選択することが可能なのか。坂本中と久慈中も選ぶことができるという人もいて、そのようなことができるのだなと思っていた。

(事務局)

自由に選択できるということではない。指定以外の学校を希望する理由を伺って、教育委員会で許可をする。

(意見)

みかの原辺りから水木小や埴山小に通っている子たちは、帰る途中でトイレが間に合わなくなったりする。統合になって、遠くなってしまうのはかわいそうだと思う。将来的には、スクールバスを出してもらいたい。常陸太田市では、統合で学校が遠くなり、乗合バスで通学させているらしいが、子どもが少ないので1人でバスに乗せるのも心配だと聞いた。日立市は交通量も多く自転車通学も危険が多い。

小学1年生に往復で何時間も歩かせるのはかわいそうだと思う。

(事務局)

再編のデメリットとして、学校が遠くなってしまうことは認識している。特に低学年のお子さんの負担や安全性を考えて、必要性があればスクールバスを走らせることも検討していく。スクールバスに乗ることで歩かなくなってしまう、体力低下を招くという報告も他市町村ではあるので、総合的に検討していきたい。

(意見)

1学級だが、他学年との交流があり良かったと思う。

統合ということになった場合、校舎がそのまま放置されては治安が悪くなり、地域のイメージも悪くなる。この辺りは公園がなく、小さい子どもを遊ばせる場所がない。跡地の活用も考えてほしい。

(事務局)

地域の活性化のために、跡地の活用は多くの自治体の課題である。日立市では、(公共施設の)跡地活用について全庁的に検討する場を設けている。皆さんのご意見を伺いながら、地域の活性化につながるよう検討していきたい。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(意見・質問)

周りの先輩などから、河原子小学区でも大久保小や大沼小に行く子がいると聞く。ますます河原子小が少なくなってしまうと思う。中学校では部活ができないという理由で大久保中や泉丘中に移ってしまうと聞いている。河原子中に行かないなら初めから別の小学校でもいいのではないかと考える。

小学校は2学級、中学校は3学級が望ましいという話を聞くと、河原子小に通わせていいのかという気持ちになる。いじめなどがあつたらクラス替えがないと辛い。

計画策定のタイミングはいつか。

(事務局)

実際には、小さい規模の学校はあり、心配される気持ちはよく分かる。これまでの懇談会の中で、小さい規模でも、一人ひとりに目が届く、仲良くなれるなどのよい面はあるというご意見もあった。一方で何かあつたときに逃げ場がないといった心配もある。できれ

ば、2学級、3学級の規模を進めていきたいと考えている。

個別具体的内容は現在検討中である。再編計画で、市の全体像と直近の10年間で取り組む内容をお示ししたいと考えている。リーフレットにもあるように、いろいろな要素を含めて検討していかなければならないので時間は必要だが、できる限り急いで考えをまとめていきたい。

(質問)

その計画には、A校とB校を統合すると書くのか。

(事務局)

そのように考えている。

(意見)

来年入学するので、早く分かれば初めから大久保小に入れるという選択肢もある。秋ぐらいには決めなくてはならない。河原子小に入学したら、「河原子小は統合の対象です」と年度末に出されても間に合わない。下の子もいる。兄弟で学校が変わってしまうのも困る。来年入学する子どものことも考えてほしい。

(事務局)

計画ができた後、すぐに学校の統廃合ができるわけではない。入学を間近に控えている親御さんの心配はお察しする。5年前に検討を始めていても、同じ状況のご家庭は必ずある。どこかでやらなければならない。急ぎ整理していくということしか申し上げられない。

(質問)

去年、在校生に説明があったと聞いた。在校生に影響はないと説明されたと聞いた。

(事務局)

地域懇談会として学校にチラシを配り、どなたに来ていただいても構わない(対象を絞らない)という形で開催した。

計画が出てから統合までには時間がかかるので、その間に卒業してしまうお子さんには影響がないということだと思う。

統合が決まってから、一般的には3～5年かかるといわれている。校舎を建て直すような場合は、設計からできるまで3年程度かかる。また、その前の準備期間として、子どもたちの交流や細々とした協議などもかかるので、一般的には5年程度かかるといわれている。

(質問)

時期は未定だということだが、少なくなるのは確かなので早く決めてもいいのではないか。(行政としての)手続きはどのようになっているのか。

(教育部長)

学校の規模についての定めはない。(何人以下になったら統合するというルールはない。)

手続きとしては、検討委員会で検討し、議会にも報告しながら進めていく。

今回、保護者説明会を開催しているのは、過去2回の地域懇談会の中で、保護者の皆さんが意見を言いにくかったらしいとのことだった。地域の意見も大切だが、保護者の皆さん

んの意見が最も大切ということで改めて機会を設けさせていただいた。

10年間で市内全体の学校の再編を全てできるわけではない。その間に状況も変化する。全体計画を立てて優先度の高いところから、初めの10年で取りかかる。全体を完了する期間ではない。

(意見)

どんどん減っていき不安が募る。後手に回るよりは早く決めて、統合する上で課題となることを解決していったほうが早い。校舎の有効活用も考えられる。

(教育部長)

3、4年もかけて再編計画を立てる考えはない。できるだけ早くお示ししたい。

児童クラブや通学方法などの協議も必要だし、コミュニティとの話し合いも必要。皆さんの意見、要望、提案をいただけると幸いに思う。

(意見)

いつまでに策定してくれるのか。取り組む10年間の起点はいつか。策定の期限を示してほしい。

3～5年かけて統合することは保護者の都合ではない。兄弟がいれば、10年程度をかけて小学校に通わせる。その間に統合があれば、子どもは何らかの形で異動する。兄弟で同じ学校に通えないかもしれない。「10年先に統合する」と言ってもらえれば、子どもにも保護者にも最も負担がない。

リーフレットにあるように先生の数が少なくなるなら、先生を増やして構わない。増やせるかどうかは統廃合とは関係ない。

細かい協議が必要だということについても、ホームページで公開して意見を書き込めるページを作ってもらえればヒアリングしやすいと思う。

(事務局)

検討する要素が多く、十分な検討が必要ということもあり、策定期期の明言はできない。来年度中には策定したい。他の会場でも将来の見通しが立たないというご意見が多い。我々も、見通しを示すことが大切だと考えている。

教員数については、必要なら今でも増やせるのではないかとご質問だった。教員の配置には国・県のルールがあって、それ以上に教員を配置するには、人を探すことや人件費についても市の負担となり現実的には難しい。お金の問題だけではなく、先生のなり手がいないという課題も大きい。ある程度の規模を確保することで教員も確保できるということで、目指すべき学校規模を方向づけした。

ホームページについてご提案いただいたように、そのような場を作っていきたい。

(意見)

河原子小はこじんまりしていて、先生方にもよく見てもらっている。3年生が42人いるが、特別支援学級のお子さんが3人いるので39人の学級として扱われて1学級。講師を含め3人の先生に見ていただいているのでありがたいのだが、担任の負担が大きい。特別支援学級も国語や算数だけなので、ほぼ42人で過ごしている。せっかく少人数の学校なのに、学級の人数は多いのが残念。

自身の出身の福島は30人学級だった。福島県の方針だと思う。

地元の河原子小学校に通わせたいと思っている。長く歩かせず、放課後は近所の友達と遊べて、地域の人たちに面倒を見てもらいながら、のびのびと地元を味わいながら小中学

校の生活を送らせたい。少人数の学校だから、少人数学級にするというような独特の良さを生かしてほしい。大きな学校はいろいろな子たちがいて雑多になる。

小学校の空き教室で幼稚園を復活させたり、コミュニティセンターとして使うなど、学校存続の方策を考えてほしい。

（事務局）

福島県の30人学級はうらやましく思う。学級の人数にはルールがあつて、国は小学校1年生が35人、小学校2年生以上は40人学級。茨城県でのルール（茨城方式）もあつて、小学2年生までが35人学級。小学3年生以上の学年で36人以上の学級が3つ以上あれば4学級にして人数をならす。

育休補充などもあるが、講師のなり手がいない状況で教務主任などが担任をしたりしている。人手不足が深刻。

10年前とは学校の状況も違ってきた。いじめなどがあれば、いろいろな立場の教員（校長や教頭）が入り、チームで取り組んでいる。心配なことがあれば、ぜひ学校に相談してほしい。先生の負担を軽減することは、ひいては子どもたちのためになることである。余裕があれば一人一人のノートを見たり、連絡帳に目を通したりすることができる。

（教育部長）

学校にはいろいろな教職員がいる。市独自では、生活指導員を各学校に配置している。先生方の事務負担を軽減するため事務員も各学校に配置している。市の行財政改革により雇う人数にも限りがある。できる限りの努力はしている。市で教員を雇用することになると、同じ職務で任命権者の違う職員がいることになり難しい面もある。（教員は県職員で任命権者は知事）

ご不満に思うところもあると思う。今日、話したことが不安を煽ることになるのは本意ではない。行政が一方的に決めたことを進めるのではなく、皆さんのご意見を伺って進めていきたいと考えている。今後も、ご意見を伺う機会を作っていく。

（質問）

今まで通り学区外の学校に通えるのか。

（事務局）

日立市は学区制を敷いている。自由に学校を選ぶことはできない。指定学校の変更の手続きは現行通りである。

（質問）

転居して河原子に住むようになったので、地域との交流がない。地域の学校に通わせて交流を持ちたいと考えている。近所では自分の子どもが初めて小学校に入学する。下の子どもたちは違う学校に行ってしまうかもしれない。自分だけががんばって河原子小に行かせても、他の子どもたちが違う学校に行ってしまったら交流できない。本来の河原子小の人数と、変更した人数などは教えてもらえるのか。

（事務局）

平成30年度では、1年生から6年生までで、河原子小から他校に変更した方は10人、他校から河原子小に変更した方は5人。中学校では、河原子中から他校に変更した方は33人、他校から河原子中に変更した方は9人。本来、学区内に住んでいる数よりも少なくなっている。

中学生は思春期でもあり、(いじめなどの) 友達関係などに配慮して(不登校につながらないように) 変更を認める場合もある。

(質問)

学校にエアコンを設置する予定はあるか。

(教育部長)

付けられるように努力している。日立市全体で486教室に設置が必要である。来年の夏に間に合うように、一斉にできるように努力している。

(質問)

前回の懇談会では、どのような意見が出たのか。

(事務局)

前は、ほとんどが河原子学区の方だった。

「少なくなってしまうと統合も仕方がない」という意見や通学に対する不安を訴える方もあった。もちろん、「(学校を) 残してほしい」という意見もあった。

(質問)

どの会場も、このくらいの出席なのか。

(事務局)

会場ごとに休日と平日の夕方の計2回を行っている。どの会場でも休日は30人前後集まっていたが、平日の夕方は夕食や家庭の事情もあり10人前後のところが多い。

前回の河原子中学校では、参加者が32人、河原子学区が28人、大沼学区が3人、塙山学区が1人だった。最も多かったところは、坂本中の33人。

(意見)

前回の河原子中に参加した人から、盛り上がったと聞いていたので、今日もたくさん来るのかなと思っていた。これしかないのに、総意と思われても困る。

(事務局)

集まっていたかたくて会場を体育館にした。もっと来ていただけるかと考えていた。

個人的な印象だが、具体的な案が示しできていないことも参加者が少ない要因かもしれない。

(意見)

職場の先輩からも、リーフレットの内容以上のものはないと聞いていたので来るかどうか迷った。

(事務局)

具体的な案をお示しして、ご意見を伺いたいということであれば、もっと参加していただけたと思う。部長からの話のとおり、案の段階でお示ししてご意見を伺う機会を設けたいと考えている。その点は、安心していただきたい。

多くの方にアンケートにご協力いただいて基本方針を策定したので、アンケートの結果も参考にしながら検討していきたい。

(意見)

日立市出身ではない。子どもが生まれたばかりなので、入学する頃は統合されているのか見当もつかない状態である。

資料を見ると、河原子中学区内の小学校は複数あり、塙山小と大沼小から進学するのは一部のようなが、友達と別れてしまい、寂しい思いをするのではないかと。6年生の子は卒業間近かになると、離れてしまうのはいやだと思うだろう。統合を考える際は、そのようなことも配慮してほしい。

学校の位置にもよるが、統合すれば学区が広がる。中学校の自転車通学を認めてほしい。大沼小の河原子中学区に住んでいるが、河原子小の方が近い。中学校に行くときに別れなくて済むように、河原子小に行かせたいと思っている。小中学校で中途半端に変わってしまうのはお子さんの気持ちも違うと思うので配慮してほしい。

(事務局)

日立市では、小中学校のグルーピングがしっかりできていない。お話にあったように、中学校で離れてしまい寂しい思いをしたというご意見も多く寄せられている。課題の一つであるので、この機会に整理をしたいと考えている。

小中連携教育に取り組んでいる。9年間を見通して、小中学校が連携してお子さんを丁寧育てていこうという取組をしているが、小中学校のグルーピングをしっかりすることでより効果が上がるので、その意味からも進めて行きたいと考えている。

(意見)

統合に時間がかかる間、日立市の基本理念が届いていないと、中高一貫校や私立の学校に流れてしまうのではないかと。そのようなことから具体的に示してほしいと考えるのではないかと。身近な地域の学校に通うことはいいことだと思うが、私立などの理念（中高一貫教育など）に共感する保護者もいて流れてしまうと思う。

(事務局)

検討委員会の中でも、公立の学校だけで考えるのではなく、視野を広げて考える必要があるという意見もあった。

自転車通学については、小学校では認めていないが、中学校では、学校によっては認めている。統合によって、通学の距離が長くなるので安全性を確保してほしい、スクールバスや自家用車での送迎、自転車などの通学手段についても検討してほしいなど多くの意見をいただいている。しっかり受け止めて提案していきたい。

国の基準では、小学校の通学距離は4km。市内では、最も遠い人で約3km、1時間程度歩いている。

参考にお伺いしたいが、通学時間はどの程度なら許容範囲と考えるか。

(意見)

時代によってギャップがあると思う。自分の頃とは単純に比較できない。

(事務局)

別の会場での、福島県から転入された方のお話で、自転車の乗り方のテストを受けてクリアすれば自転車通学が認められたということをお伺った。平らなところと坂が多い所では同じ距離でも異なるなど、地域事情は違うと思う。

(意見)

不審者も多い。2 kmくらいなら歩けるのではないか。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。